

身近な雑かん木 (4) クワ(ヤマグワ)とコウゾ(ヒメコウゾ)

NPO 法人自然観察大学 理事 岩瀬 徹

クワ (ヤマグワ)

かつてクワは養蚕のため広く栽培されたが、いまもその名残りと思われるものが見られ、ときどき大きく成長している。栽培クワは中国原産のマグワから改良されたものといわれるが、野生のクワ (ヤマグワ) との中間的なものもありその区別はむずかしい。

ヤマグワは高さは2~3mほどだが、ときには10mを超えることもある。林縁部や草むら、空き地などに広く生育する。よく枝を伸ばし、樹皮は灰褐色、横向きの皮目が散在し縦にひび割れ模様がある。葉は互生、縁にはやや粗い鋸歯がある。表面はざらつく。切れ込みのないものから深く3~5裂するものまで変化がある。

花期は4~5月。雄花序と雌花序は別の株につく。それぞれの花序に多くの雄花と雌花が集まる。がくは4個で小形、花弁はない。雄花は雄しべ4個、雌花は雌しべ1個で柱頭は2裂して長い。花後、がくが肥大して子房(果実)を包み偽果となる。それが集まって楕円体の複合果となる。これがいわゆる桑の実で、赤から黒に熟し食べられる。個々の実に花柱が残る。マグワの複合果は大きく、個々の実に花柱が目立たない。

葉の落ちた跡(葉痕)は半円形。冬芽は筍状に数個の鱗片で包まれる。

コウゾ (ヒメコウゾ)

古くから和紙の原料として栽培されてきたコウゾに対して野生の種をヒメコウゾ(通称コウゾ)という。栽培コウゾはカジノキとヒメコウゾの雑種を改良したものといわれる。利用するのは樹皮の中の師部繊維である。

ヒメコウゾはクワに似ており、同じようなところに生育する。高さ2~4mほど。枝は長く伸びて広がり、樹皮はやや暗い灰褐色。皮目はクワに似る。若い枝には上向きの毛が密生する。葉はクワよりもやや濃緑色で軟質、切れ込みのないものが普通だがときには2~3裂する。

花期は4~5月、雄花序、雌花序は球形で、同じ枝につく。雄花はがく4個、雄しべ4個、雌花は4個のがくが合着、赤紫色の花柱が目立つ。花後、がくが肥大して子房(果実)を包み偽果となり、集まって球形の複合果をつくる。赤く熟し食べられる。

葉痕はほぼ円形、冬芽は卵円形で2個の鱗片で包まれる。



写真-1 クワの若い枝と葉



写真-2 クワの樹皮



写真-3 クワの花序 (雄花序)



写真-3 クワの花序 (雌花序)



写真-4 クワの果実



写真-5 コウゾの葉



写真-6 コウゾの樹皮



写真-7 コウゾの花序（球状に垂れるのが雄花序、花柱の目立つのが雌花序）



写真-8 コウゾの果実

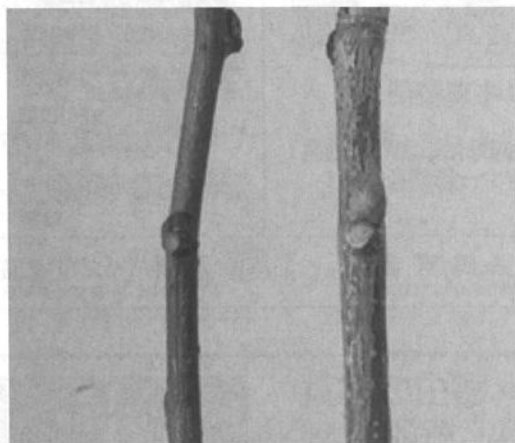


写真-9 冬芽の比較。左がコウゾ、右がクワ。落葉していても両種の区別がつく。